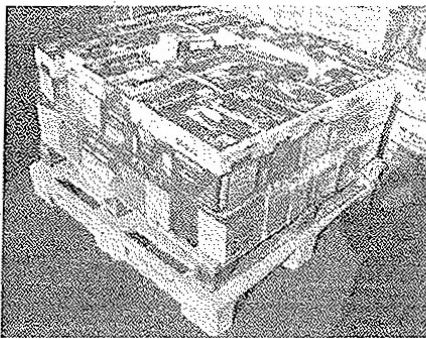


# 鉛バッテリー回収システム構築

## 加瀬興業 有価買取、国内で資源化

加瀬興業(本社・横浜市、若松敏彦社長、☎045・595・2237)は1月から鉛バッテリーの回収事業に乗り出した。使

用済み鉛バッテリーを事業者から有償で買い取り、三井金属鉱業子会社の神岡鉱業(岐阜県飛騨市)で鉛原料として資源化する。乾電池、蛍光灯のリサイクルを手掛ける野村興産(本社・東京)とその収集運搬に携わる協力会社のリサイクルネットワークを活用した回収スキームをつくる。



自動車、産業用、小型シールド鉛バッテリーを対象に買い取る

買取対象の鉛バッテリーは自動車・産業用・小型シールドの3種類となる。まずは関東地域に同社と野村興産

の協力会社である大興運輸倉庫(本社・東京、片山饒社長)の2社で3拠点程度の集約場所を設け、月間200ト

ンの回収を目指す。その後徐々に回収拠点を拡大するとともに取り扱う鉛バッテリーの種類も増大させる計画だ。買取価格は鉛の資源価格を参考に四半期ごとに見直す。

使用済みとな

った鉛バッテリーの回収実態は不透明な部分が多いが、鉛価格やバッテリーの排出数量によつては、産業廃棄物としてユーザーが処理業者に処理料金を支払って引き取られている。また海外バイヤーが購入してアジア諸国に輸出しているケースも少なくない。

テリーの回収を希望する事業者が多く、適正な排出先が分からずに困っているエンドユーザーもいたという。今回構築したリサイクルスキームでは、鉛バッテリーのリサイクルが国内で完結するた

め、金属資源の海外流出に歯止めをかけることができる。また、対象のバッテリーであればすべて有価物として買い取るため、産業廃棄物処理の委託契約締結やマニフェストの交付なども必要なくなる。加瀬興業は1970年創業で産業廃棄物の収集運搬と中間処理、一般廃棄物の収集運搬などの事業を展開する。横浜市と埼玉県深谷市にリサイクルセンターを構え、RPFの製造や情報機器のリサ

イクルを手掛けている。同社も野村興産の協力会社の一員で乾電池、蛍光灯の回収と蛍光灯の破砕処理も行っている。

取りと合わせて鉛バ